

長大・田中裁判とは

田中裁判は、不当な懲戒処分の撤回と損害への賠償を求めていました。しかし、裁判の成り行きを見ていただけでは、長野大学が直面している深刻な事態を理解するには色々大変です。

そこで、今回は長野大学問題の流れの概要を追ってみました。

22年10月・長野大学では、不正告発を行った教員多数が、逆に一斉に懲戒処分を受けた。
懲戒処分の理由は、「副学長の研究不正を調査するように学長に強く働きかけたことにより不適切な結果を主導したこと」



二、不正を告発した教員ら 逆に懲戒処分を受ける

17年、長野大学は公立化したが、学も認めた。
会計不正や労基法違反（労基署から複数回の是正勧告）が相次ぎ、ガバナンスが機能不全に陥った。教員らが長野大学上層部の不正を告発した。不正調査の結果、証拠が明らかになり、調査された問題のうち1件については、上層部による会計不正があつたことを大

調査を続けようとした教員たちに対し、上田市役所の部長が不正ガバナンスが機能不全に陥った。教員らが長野大学上層部の不正を告発した。不正調査の結果、証拠が明らかになり、調査された問題のうち1件については、上層部による会計不正があつたことを大

一、公立化以降 長野大学では不正が多発

三、不法な懲戒処分に対して訴訟を起こす

2022年12月：不法懲戒処分の無効を求め、教員1名が、長野地裁上田支部に提訴した。

四、裁判の現状

争点：不正調査の要求が懲戒の正当な理由となるか。
大学側は処分の正当性を示すことに苦慮して明確な反論ができていない

五、この裁判の目的と意義

この裁判の目的は、長野大学に不正のない、公正な教育・研究環境を取り戻すことです。
教員と学生が安心して教育・研究に専念できる大学にするため、引き続き裁判を進めています。

長野大学の教職員が安心して働く職場づくりにご協力ください